

大学院「サステナビリティ学教育プログラム」において、茨城町にて国内実践教育演習を実施しました。(2014年9月15日～17日)

茨城町において「国内実践教育演習」(2単位)のフィールドワークを2014年9月15日(月)から17日(水)までの3日間実施しました。

茨城町と茨城大学は人文学部が、2013年1月に地域連携協定を締結し、さらに今年度は本学の戦略的地域連携プロジェクトとなっています。本演習は、これら地域連携の一環として、学内の大学院4研究科すべてから参加学生を募り、9名の大学院生が参加しました。県央に位置する茨城町の豊かな自然に触れながらの演習となりました。

演習1日目は、茨城町で活動する「NPO 環~WA」にご協力いただき、自然体験教室を行いました。茨城町小幡の山林にて、間伐体験、間伐材を利用したベンチづくり、小型バイオガスストーブと木質ペレットづくり、などを体験しました。^{注1}

2日目は、専門を異にする学生がそれぞれ、潤沼のラムサール条約登録に向けた「住民の意識調査班」、「マップ、サインづくり班」の2班に分かれ、それぞれに茨城町役場の方と現地を回り、行政、専門家、漁業関係者などにインタビューを行いました。

3日目は、2日目のフィールドワークの成果を発表しました。発表会には、茨城町町長や町内の各地区の代表、町の職員に参加して頂き、今後の調査に対する助言や激励を受けました。

3日間のフィールドワーク後も活動は続いています。「住民の意識調査班」は実際に住民の方へのアンケート調査^{注2}を、「マップ、サインづくり班」も来年度に設置を目指しデザインの原案を作成しています。それぞれのグループによるフォローアップの活動の詳細は、11月16日(日)に行われる「ひぬま環境フォーラム」でも発表予定です。

今年度より始まった茨城町における演習も非常に濃い内容の1年目となっています。来年度への引き継ぎを含めて、継続的な取り組みとしていきたいと思えます。

^{注1} なお、1日目に間伐材で作成したベンチは、水戸市立博物館の特別展『里山 一人と自然がつながる未来へ』にて展示されます。

2014年10月13日(月)～11月16日(日) ※月曜休館(10月13日、11月3日は開館)

特別展の情報はこちら <http://www.city.mito.lg.jp/001373/001410/p012334.html>

^{注2} 茨城町と共同で行っている意識調査アンケートの実施概要は下記を参照してください。

<http://www.town.ibaraki.lg.jp/planning/info-1922.html>

実施期間：2014年10月17日(金)～10月31日(水)

◆間伐・チェーンソー体験



◆バードウォッチングポイントを探る



◆ベンチづくり用に間伐材の表皮剥き



◆発表会向け最終準備



◆初日はバーベキュー&野営体験



◆町の方も多数参加し行われた発表会

